

# ひみふくし

9

2026 Sep  
No.457

企画・発行

社会福祉法人 氷見市社会福祉協議会

〒935-0025 富山県氷見市鞆川975

TEL 0766-74-8407

<http://www.himi-shakyo.jp>

この広報誌は皆さんからの会費、  
共同募金の助成金により発行  
されています。



地域の情報を分かち合い、  
共に高める防災意識

論田地区で、平成28年から毎月5のつく日に地区住民有志が開催している「茶論<sup>サロン</sup>」。スタッフの得意なことを活かした体操や歌、脳トレなどを通して交流を深め、参加者・スタッフの生きがいや地域のつながりを育む活動となっています。

今回は「防災」をテーマに、住宅地図を囲み、危険箇所を参加者同士で出し合い、共有しました。「高齢になっても自分の身は自分で守る」という意識を一人

ひとりが持ち、自分が知る危険箇所を伝え、知らなかった情報を学ぶことで、防災への意識を高める機会となりました。参加者からは、「地域の危険箇所を再認識できた」「能登半島地震の時は情報が少なく、どう行動したら良いかわからなかった」「普段から避難先を考えておくことが大切だと感じた」などの声が聞かれました。今後は、地区在住の防災士を招き、災害に応じた避難方法や備えについて学ぶ予定です。

※茶論の正しい表記は「茶サロン論」。

## ▼CONTENTS▼

- ◆能登半島地震 被災者のいま ～転居先の地域が居場所になるまで～ …2ページ
- ◆「障害者雇用支援月間」インタビュー …3ページ
- ◆突撃!? ぼーの調査隊!! 「もしもしリンリンの会」 ◆各種お知らせ …4ページ



# 転居先の地域が居場所になるまで

「今朝、サッカー(W杯)見とったけど、朝早くとうとうとしとったわ」。布施公民館で毎月5日、15日に行われている「きづなサロン」で健康麻雀を楽しみながら、地域の皆さんと談笑しているのは震災をきっかけに東地区から転居された森谷周正さん(85歳)です。今回は転居先で「居場所」を見つけた森谷さんにお話を伺いました。



わいわいと賑わう「きづなサロン」

森谷 周正さん

## 全壊からの決断、そして新しい一歩

森谷さんが被災前に住んでいた自宅は、建ててから30年も経っていませんでしたが、全壊の判定を受けたことで公費解体に踏み切りました。液状化の被害が大きく、元の土地で再建するにはあまりにも費用がかかることが大きな要因でした。

長年住み慣れた土地を離れる葛藤もありましたが、同居している息子夫婦の想いを尊重し、みなし仮設住宅として避難していた布勢地区の一軒家を購入しました。

森谷さんは、「知り合いが全くいない。土地勘もなかった」と当時を振り返ります。まずは地域を知らなくてはいけないと考え、時間を見つけて地区内を歩いて回りました。布勢の円山や光久寺の美しさに心を打たれながら、道行く地域の方から声をかけていました。自分を知ってもらうことが大切だと思っていたからです。



仲間たちと健康麻雀を楽しむ森谷さん

## 声をかけられて、つながった 「きづなサロン」が 育む居場所

ある時、民生委員児童委員(当時)をしていた山下茂春さんから「きとときと100歳体操」に参加しないかと声をかけられました。ここでも、顔を覚えてもらおうと積極的に参加した森谷さん。すると、次々と地域の活動に声をかけられるようになりました。

当時について、山下さんが「せっかくと100歳体操に来てくれたので世間話をしていたら、元の地域でも健康麻雀をしていたと知って「きづなサロン」でしている健康麻雀にお誘いしました。それから毎月顔を出してくれるようになり「たまたま趣味が合った」と言つと、「たまたま趣味が合った

から顔を出しているだけだよ」と、森谷さんは目を細めながら、新たな土地での生活を振り返っていました。

解体した自宅の土蔵から孫の画材道具が出てきたので、そのまま捨てるのはもったいないと考えた森谷さんは、どうせ畑もやらなくなったなら描いてみよう、と、今までやったことのない絵画に挑戦します。完成した作品は山下さんの声かけで「きづなサロン」に飾られることになりました。「昔からここ(布勢地区)に住んどうるみたいに馴染んどるわ」。絵を眺めながら「きづなサロン」の参加者が話します。

「居場所」は、場所そのものだけではなく、人とのつながりの中にあります。「きづなサロン」をはじめとする布勢地区の活動が、被災者の新しい生活を静かに、しかし確かに支えていました。つながりの輪は、今日もまた誰かの背中をそっと押しています。



森谷さんの作品の前で山下さんと森谷さん





トライ・プリント本社工場

## 毎年9月は 「障害者雇用支援月間」です。

この期間中は、事業主だけでなく、国民に広く周知をはかるとともに、障害者の職業的自立を支援するため、都道府県などでさまざまな啓発活動が行われています。

インタビュー

## 『挑戦できる職場』

障害者雇用支援月間に合わせて、実際に障害者雇用で働いているAさん(20代男性)と、上司の方に話をうかがいました。

● Aさんにうかがいました。

どんな仕事をしていますか？

トライ・プリント本社工場に準社員として1日6時間勤務をしています。製品の傷を見つける検品や保護テープ貼り、それに伴う機械でのライン作業を行っています。

その他にも、全従業員が行っている委員会活動で今年度は環境委員会に所属しています。



検品作業中のAさん

就職するまでの経緯は？

療育手帳を取得し、高等支援学校在学中の職業体験をきっかけにトライ・プリントに就職しました。今は在職3年目を迎えました。

実際に働いてみてどうでしたか？

入社当初は、社会人1年目で仕事が進まらなかつた不安でドキドキしました。言葉が出にくいので、先輩従業員に側で声を掛けてもらいながら働けたことが安心につながりました。今では、自分から挨拶や業務報告もできるようになりました。

委員会活動では掃除や整理整頓活動を実施しました。40〜50人の従業員の前で呼びかけや活動報告の発表ができたことは自信になりました。

これから頑張りたい事は？

できる仕事が増える事は嬉しいです。これからのいろいろな挑戦し、パッド印刷を習得できるように頑張りたいです。

● 上司の方にうかがいました。

一緒に働いてみて感じることや工夫されている点は？

高等支援学校在学中の職業体験で顔を合わせていたこともあり、コミュニケーションをとりやすかったです。

本人にわかりやすいようにゆっくりと話したり、作業の工程を確認しながら進めるようにしています。作業内容も簡単なことから始め、本人の向き不向きを見極めながら判断しています。

障害者雇用を検討している会社の方にメッセージをお願いします。

「障害のあるなし」というより、どんな人にも向き不向きがあることの延長だと感じています。

困ったことがあった場合は、前向きに考えてほしいです。会社だけで抱え込まずに外部の専門職や相談機関と連携することでお互いに働きやすい環境が整えられるきっかけになります。

### \*\*\* インタビューを終えて \*\*\*

Aさんと上司の方のインタビュー後、株式会社トライ・プリント斎藤社長が、「雇用したすべての従業員が大切。フィーリングを大事に、お互いに無理せず働きやすい風通しの良い関係性を築き、従業員個々の自立を目指して社内のいろいろな取り組みに参加・挑戦し、振り返りの機会を設けて自信がつくようにサポートしている」と話されました。社のモットーである「最高のものづくりへ挑戦しつづける」のもとに、社風として従業員の障害のあるなしを超えてAさんが挑戦できる環境を作っていってほしいことが印象的でした。

ふくし相談サポートセンターでは、本人だけでなく家族を含む周囲の方々からの相談も受け付けています。地域の中で安心して暮らしていけるよう、社会とのつながりづくりもサポートしています。

### Information .....

#### ふくし相談サポートセンター

〒935-8686 氷見市鞆川1060(氷見市役所内)  
TEL:30-2937 FAX:30-2913  
受付時間 平日8:30~17:15



# 突撃!? ぼーの調査隊!!

ぼ: もしもしリンリンの会が設立された経緯を教えてください。

も: 結成は昭和62年、他の市に比べて氷見市では高齢化が早く進むことから、高齢化対策の一つとして、富山県で初の電話訪問事業として、市内の民生委員児童委員の有志の方がグループを作り、もしもしリンリンの会が設立されました。その後、世代交代をして、現在のメンバーが活動を引き継いでいます。

ぼ: 活動内容について教えてください。

も: 事前に希望をいただいている70歳以上の一人暮らしの方、または日中一人になる方を対象に月1~2回、電話訪問をしています。「もしもしリンリンです。こんにちは。お元気ですか?」と、最近の出来事を聞いたり、世間話をしたりしています。安否確認だけでなく、畑のことや家族のことなど楽しそうにお話ししてくださるのが毎回楽しみです。

こんにちは、  
もしもしリンリンです。  
おげんきですか?



ぼーの(以下、ぼ):

今回は今年で結成38年になる電話訪問ボランティア団体『もしもしリンリンの会』の皆さん(以下、も)にインタビューするよ!



ひみボランティア  
マスコット  
ぼーの

ぼ: 電話訪問をしていて大変なことや、苦勞されていることがあれば教えてください。

も: 活動で大変だと思ったことは1回もありません! ですが、不在が続くと「元気かな」「どうしたのかな」と心配になることがあります。元気な声を聴くと「ホッ」としてうれしくなります。

ぼ: もしもしリンリンの活動の中で一番嬉しいことはなんですか?

も: 「ありがとう」「また電話まっとうよ」という優しい言葉をもらえることが一番嬉しいです。そんな時に「ああ、ボランティアをしていてよかったなあ」と思います。



氷見市ボランティア総合センターでは電話訪問の利用者を募集しています。私たちと楽しくお話しませんか? 日中のお話し相手を探しておられる方はぜひボランティア総合センターまでお問合せください。

## Information 氷見市ボランティア総合センター

〒935-0011 氷見市中央町12-21 (氷見市いきいき元気館内)  
TEL: 74-1800 FAX: 74-8055 受付時間 8:30~22:00

## ご寄付をありがとうございます

令和8年7月1日~31日受入分(敬称略・受付順)

紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

### 【一般寄付】

富山県生活協同組合連合会 500,000円

コマツユニオン氷見支部 135,684円

地域福祉の推進に活用させていただきます



富山県生活協同組合連合会の贈呈式の様子



コマツユニオン氷見支部の贈呈式の様子

## 秋のお出かけを楽しんでみませんか?

どなたでも車いすレンタルできます

### 料金

1日 15円 返却時に消毒料 300円

### 車いすのタイプ

2種類から選べます

- 押してもらうタイプの車いす
- 自分でこいで進めるタイプの車いす



### Information 氷見市社会福祉会館

〒935-0025 氷見市鞍川975番地  
TEL: 74-8407 受付時間 8:30~17:00 (日曜日以外)

## 成年後見制度・日常生活自立支援事業相談会を開催します

氷見市手をつなぐ育成会と氷見市社会福祉協議会では、標記の相談会を開催します。本人、ご家族、支援者、どなたからの相談でも構いません。

日時 令和8年9月8日(火) 13:00~16:00 ※受付は15:30まで

会場 氷見市役所1階 カンファレンス1・2

対応者 一般社団法人富山県社会福祉士会、権利擁護センターばあとなあ富山の会員で、実際に後見人等として活動している社会福祉士と氷見市社会福祉協議会職員

申込み あなくら社会福祉士・行政書士事務所  
TEL/FAX 0766-54-5348

※相談は無料です。予約者を優先しますが、当日直接会場にお越しいただいても構いません。